

日本小児血液・がん学会 第6回理事会議事録

日 時：平成24年11月29日（金） 14:00～16:00

場 所：パシフィコ横浜 会議センター会議室

出席者：石井 榮一（理事長）

越永従道（副理事長）、足立壮一、池田 均、今泉益栄、小原 明、菊地 陽、
工藤寿子、黒岩 実、嶋 緑倫、滝 智彦、野崎美和子、細井 創、真部 淳、
米田光宏（以上理事）

伊藤悦朗、福澤正洋（以上監事）

加藤俊一（第54回学術集会会長）

小田 慈（第56回学術集会会長）

水谷 修紀（オブザーバー）

原 純一（オブザーバー）

欠席者：中澤温子（理事）

田口智章（第55回学術集会会長）

議事録署名人の選出

議事録署名人として今泉 益栄先生、滝 智彦先生が選出された。

I 報告事項

1. 庶務報告：越永委員長より現在の会員状態ならびに賛助会員について報告された。
 - ・石井理事長より、理事からも製薬会社等に賛助会員となって当学会を支援して下さるようお願いするよう依頼があった。
 - ・新入会員については問題なく承認された。
2. 前回理事会議事録の確認：議事録について確認され、議事録署名人の印をいただくことになった。
 - ・理事会議事録を学会誌に掲載することが確認され、第5回の議事録のその他の協議事項について、「現在調査委員会にて継続審議中」とすること、また、第57回学術集会会長の投票については結果のみ掲載することとなった。
3. 常設委員会報告
 - 1) 規約委員会：野崎委員長より資料に添って年次活動報告と時期活動計画の説明がされた。
 - ・利益相反の規約を利益相反委員会とまとめていくことが報告された。

○評議員の選出について定款施行細則の改定案の以前の理事会での討議をもとに文言の統一を行ったことが読み上げられ審議された。

- ・看護師の評議員は現在いないが数年後には考えられる。その際には看護分野の専門家の委嘱評議員に評価を依頼する。
- ・評議員の再任について、来年は再任時期になるので本人の再任の意思を確認することになった。
- ・承認については理事・評議員資格審査委員会で検討する。
- ・血液専門医の中には小児科専門医でない方もいる。血液内科の先生でも小児科領域の申請資格があるということによりかという発言があり、理事・評議員資格審査委員会より、「各領域の共通申請領域はクリアする必要がある。それを満たしていれば審査委員会で判断する」という回答があった。
- ・小児科と内科の間の思春期科を考えると積極的に内科を巻き込んでいくこともよいのではないかとの意見があった。

2)学会誌編集委員会：編集の進捗状況について嶋委員長から資料に沿って説明があった。

- ・第4号の進捗状況として原稿数は総数28本、発行予定は12月中である。
- ・査読システムについて現在は受付・審査とも基本的にメールで行っているが、メールのやり取りが煩雑なためWEBを使った査読システムを検討する。
- ・jステージについて検討するよう石井理事長より依頼があった。
- ・前編集委員会のもので査読に時間がかかりすぎているものについて、林先生から確認をさせていただくこととなった。

3)学術・教育委員会：細井委員長より資料に沿って説明があった。

- ・活動報告として、学術賞に吉田健一先生（血液の基礎）谷ヶ崎博先生（血液の臨床）、竹信尚典先生（がんの基礎）上田祐華先生（がんの臨床）の4名が決定したこと、米国小児科関連学会学術集会での推薦発表者が吉田健一先生に決定したことが報告された。
- ・白血病研究基金の学会推薦者について来年からは学術・教育委員会で1名選任することになった。ホームページ上にも募集を掲載する。
- ・小児血液・がん学会暫定指導医取得条件に、筆頭論文5編を入れることから小児科専門医取得条件にも筆頭論文の条件を入れるよう働きかけることが委員会内で合意されたことが報告された。

4)保険診療委員会：黒岩委員長より資料に沿って報告があった。

- ・医療上必要性の高い適応外薬・未承認薬について、イリノテカンが検討会で公知申請が承認された。ノギテカンは検討中である。公知申請が出されたものはホームページに掲載する。

○平成26年診療報酬改定について小児血液・がん学会保険診療委員会として下記4点の要

望案について説明された。

医療技術評価：陽子線治療

小児血液・がん診療におけるマンパワー確保に資する項目の増点、新設

小児医療全般に共通した事項

免疫不全状態に合併するウイルス感染症(EBV、CMVおよびHHV-6)検査の保険収載

○平成 24 年度の活動方針として

- ・平成 26 年診療報酬改訂に向けて、3 月の提案書締め切りまでにアンケート調査をしてデータをまとめたい。
 - ・保険診療委員会による診療報酬改訂における要望項目の選定と決定。
 - ・小児鎮静(深麻酔)のアンケート調査 (評議員会)
 - ・小児入院医療管理料に係る加算の施設基準についてアンケート調査(保留)
- 石井理事長より 協和発酵キリンがペグエルアスパラキナーゼの地検をおこなう。FDA に申請しているが承認される予定となっていて、それを見越して日本でスタディーを開始することが報告された。

5)専門医制度委員会：菊地委員長より、資料の通り 23 年度の活動報告と 24 年の活動計画について説明があった。

- ・現在、専門医試験のスケジュールに沿って、試験問題作成委員の先生を募集している。
- ・第 3 回の暫定指導医の募集を 25 年 2 月に行う。案内をホームページに掲載している。
- ・認定外科医と研修施設の募集は 25 年 4 月に行う。
- ・厚生労働省委託事業として 25 年 1 月 2 月に緩和ケア研修会。2 月に教育セミナーを行う。

6)国際委員会：真部委員長より活動報告が資料に添って行われた。

- ・A S P H O との意見交換が始まっている。
- ・学会雑誌の国際化について、総会の承認を得てから進めていくことが確認された。

○アフラックの TOMODACHI プロジェクトについて石井理事長より説明された。

- ・アフラックが費用を出し、2 人程度研修をアトランタの Aflac Cancer Center で 6 ヶ月行う。助成金額 200 万円。
- ・12 月中旬より募集を開始する。被災地域から優先で選考したい。
- ・選考委員は学会理事長、副理事長、学術・教育委員会、国際委員会を中心に 6 名。ゴールドリボンネットワーク松井理事長。

7)理事・評議員資格審査委員会：今泉委員長より評議員の申請状況について説明があった。

- ・申請資格は 61 名の申請者全員が適格であった。
- ・全員が新評議員となった場合も会員の 13%であり条件を満たしている。
- ・理事・評議員資格審査委員会として全員を推薦し、理事会でも承認し、評議員会で報告

することが確認された。

8)診療ガイドライン委員会：米田委員長より平成23年度の報告と24年度の計画が報告された。

- ・昨年発行された白血病・リンパ腫のガイドラインと固形腫瘍のガイドラインは、発刊後1年を経過した平成24年12月からホームページ上で閲覧できるよう準備をしている。
- ・学会ホームページに掲載後、mindsのホームページにリンクを張って頂くことが報告された。
- ・3年後のガイドラインの改定に向けて、それぞれの疾患の執筆責任者に学術集会期間中に集ってもらい説明を行うことが報告された。
- ・会員にたいして広報をしていくことを考えている。
- ・非腫瘍性の血液疾患の診断アルゴリズムを血小板委員会で作成している。小児血液・がん学会の学会誌に投稿しサマライズする形でホームページに上げたいが、どこに相談して承認をもらったらいいかとの質問があり、ホームページに掲載する場合は理事会で検討することが確認された。

9)疾患登録委員会：小原委員長より報告があった。

- ・現在の活動状況は日本小児血液学会の「血液疾患疫学調査研究」と日本小児がん学会「全数把握登録事業」の2つをまとめた「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学調査」の研究計画書を臨床研究審査委員会へ審査提出中である。
- ・学術集会中の評議員会と会場のポスターで2011年までに登録された症例の内訳を掲示する。総会で報告した後、血液学会、小児外科に開示をする。

○福島原発事故が今後の小児がんにどのような影響があるかの研究について、菊田先生から疾患登録のデータベースとのリンクができないかという提案があった。

- ・その期間どこに住んでいたかの状況を収集することが現在の体系ではできない。長期間にわたる事業なので、行政の事業としての提案があつて学会が協力できるかという形でないといふと学会単独では難しい。
- ・国民、住人への説明で事業か研究かを明らかにする必要がある。医療者の研究なのか、国民の健康の観察の事業なのかははっきりしないと機微なことが聞けない。今の体系の中ではすぐにスタートできないのが委員会の見解。議論の芽が消えたのではなく、なにができるか検討していかなければならない。
- ・石井理事長⇒現時点ではペンディングになっているが、国の継続的な事業であることが確認できれば学会としても協力を考えている。
- ・菊田先生は今疾患登録事業の質問のなかに、3月、4月にどこに住んでいたかをいれてほしいとのこと。その情報を福島に提供することになる。

- ・委員会としては疫学者がきちんと入って研究デザインをしないと難しいと思っている。
- ・学会としてどうやっていくかを委員会に指示してほしい。
- ・菊田先生から理事会あてに書面で計画書を提出していただくこととなった。

10)倫理委員会：工藤委員長より報告された。

- ・平成 23 年度は倫理委員会で審議される案件がなかったことが報告された。
- ・平成 25 年から学会役員、機関誌発表者などの利益相反の開示を実施するための規程の策定作業を利益相反委員会と合同で開始することが報告された。

11)利益相反委員会：滝委員長より報告された。

- ・学術集会の利益相反の開示についての報告があった。
- ・平成 25 年から学会役員、機関誌発表者などの利益相反の開示を実施するための規程の策定作業を倫理委員会と合同で開始することが報告された。
- ・ランチョンセミナーにも適用したほうがいいのではないかとの意見があったが、滝先生から区別をしていないと報告があった。
- ・ランチョンセミナーは学会と共催であるので、入れる必要があるのではないかという意見があり、利益相反委員会で検討することになった。

12)臨床研究審査委員会：足立委員長より平成 23 年度の活動について報告があった。

- ・審査番号 24 から 27 は 2 次審査終了。28 は 1 次審査終了。29、30 は 1 次審査中であることが報告された。
- ・血液WG、固形WG 合同で今後の進め方についてミーティングを行う。

4. 理事長諮問委員会

1)将来計画委員会

アフラック TOMODACHI プロジェクトがホームページに掲載されていることが報告された。

5. 疾患委員会

1)造血細胞移植委員会：足立担当理事より報告があった。

- ・小児ドナーの倫理指針の検討、安全性の調査を行った。
- ・24 年度は小児ドナーの倫理指針改定に向けての検討と小児ドナーからの幹細胞採取ガイドラインの作成を行うことが報告された

2)再生不良性貧血・MDS 委員会：工藤担当理事より報告があった。

- ・小児再生不良性貧血治療研究会及び小児 MDS 治療研究会 + JPLSG JMML 委員会との合同開催したことが報告された。

- ・ MDS と再生不良性貧血の中央診断システムについて、スメアは名大と聖路加、生検は名古屋第一日赤でレビューされている。今後は検体保存システムを考えてゆきたい。
- ・ 今後の方向性としては、国際協力を視野に入れ活動すること、11月にプラハで第6回小児 MDS 国際シンポジウムが予定されているとの報告があった。

3)血小板委員会：今泉担当理事より報告があった。

- ・ ITP 疫学観察研究は5年のものだが途中経過を学術集会のワークショップで報告する。
- ・ 先天性血小板減少症・異常症の診断アルゴリズムをホームページに開示する。
- ・ 患者用 ITP パンフレット（第2版）の販売を行った。

4)止血・血栓委員会：嶋担当理事より報告があった。

- ・ 乳幼児重症型血友病に対する定期補充療法に関する調査研究を行った。
- ・ 中心静脈カテーテル留置に関するガイドラインの作成について、現在、クリニカルクエスションの作成中であることが報告された。
- ・ 小児血友病診療ネットワークについて、2012年11月22日現在の登録医師数は520名、登録施設数は321施設であることが報告された。

5)組織球症委員会：石井担当理事より資料の通り報告があった。

- ・ 今後の活動について、(1)平成23年度の活動の継続、(2) JPLSG の HLH/LCH 委員会、LCH 研究会などとの協同研究の推進 (3) HLH、LCH に関する新たな研究への取り組みがあることが報告された。

6. 学術集会準備状況

1)第54回日本小児血液・がん学会会長の加藤先生よりお話があった

ご協力ありがとうございました。プログラムの発送が座長の辞退、海外とのやり取りのため遅れて申し訳ない。

トラベルアワードの扱いは、国際委員会と一緒にを行うのか明確にしておくとういのはないか。

2)第56回日本小児血液・がん学会準備状況：小田先生より報告があった。

日程は2014年11月28日から30日。会場は岡山コンベンションセンターにて。

学会事務局をコングレ担当するのは第55回学術集会までなので現在3社から見積もりを取っている状況であることが報告された。

プログラムは学会のプログラム委員会で検討してほしいということが提案された。

来年の理事会の日程を決定した

2月15日(金)

5月10日(金)

7月12日(金)

9月13日(金)

10月25日(金)

以上